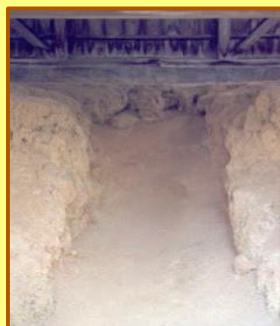


ほんごうはにかまあと 本郷埴輪窯跡

本郷埴輪窯跡は藤岡市に位置し、5世紀後半から6世紀末まで操業していたと言われています。
窯の創業時期と制作年代が重なる保渡田古墳群や国宝となった綿貫観音山古墳の数多くの埴輪もこの地で焼かれた埴輪だと判明しています。



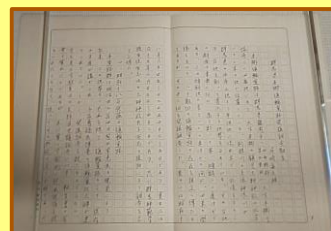
↑窯跡の様子

窯の構造は「登窯」といわれ、斜面の下で火を焚き、その熱や煙を上方に送り出す仕組みになっています。長さは5.5m、幅は1.8mです。

窯の中からは人物・馬・家・大刀・矛・盾などの埴輪が出土しています。

特に埴輪馬を数多く出土したようですが、これはこの窯で焼き損じたものを捨てていたものが出土したと考えられています。

昭和18・19年に尾崎喜左雄氏によって2基が発掘調査されましたが、実際に当時使われていた窯は20数基あったと推測される、ということが発掘調査報告書の草稿に記されています。



↑発掘調査報告書の草稿

このような歴史のある本郷埴輪窯跡は昭和19年11月13日に国指定史跡として文部大臣より指定を受けました。現在見学できる窯跡は、保存状態が良かった1基の窯が覆屋で保護されたものです。



↑発掘当時の窯跡の様子

本郷埴輪窯跡発掘調査当時の写真です。
写真に写っている子どもは近所の子でしょうか？
尾崎先生は調査後、地域の方々や子どもたちを対象に発掘した窯や古墳について解説をされていたそうです。

Q. どうして窯は藤岡に作られたの？

A. 窯のあった場所には良質な土があったからだと言われています！

